

決算説明資料

2006年3月期第3四半期

2006年2月2日
ミネベア株式会社

連結業績ハイライト

(百万円)	2005年3月期	2006年3月期		前年同期比
	3Q	2Q	3Q	伸び率
売上高	75,180	80,049	80,948	+7.7%
営業利益	4,165	4,214	6,043	+45.1%
経常利益	2,950	3,159	4,694	+59.1%
税引前利益	2,445	3,595	4,474	+83.0%
純利益	1,575	1,441	2,400	+52.4%

売上高は前年同期比実質ほぼ横ばい。
営業利益は前年比45%増。2Qより18億円改善。

為替の影響 05/3期3Q → 06/3期3Q
US\$ 106.80 円 → 116.21 円
タイパーツ 2.62 円 → 2.83 円
売上高 +46 億円、営業利益 +3 億円

2006年2月2日

1



2006年3月期第3四半期の連結業績は、売上高809億円、営業利益60億円、純利益24億円となりました。前年同期に比較して、売上高は8%増、営業利益は45%増、純利益は52%増と、増収増益となりました。第2四半期との比較では、売上高は横ばいであったのに対して、営業利益は18億円改善しました。

第3四半期は、世界的に景気は堅調に推移しました。PCやHDDなど当社製品の主な市場は好調に推移し、販売価格も比較的安定して需要環境は良好でした。

第3四半期は円安の影響もありました。前年同期に比較して売上高への円安の影響はプラス46億円、よって実質の増収率は1.5%でした。営業利益では、原価と販管費も円安の影響によって増加したため、影響額はプラス3億円と、大きな影響はありませんでした。

セグメント別収益

(百万円)	2005/3期	2006/3期			前年比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	1Q	2Q	3Q		
〔売上高〕						
機械加工品	28,927	30,573	31,631	32,938	+13.9%	+4.1%
ベアリング関連製品	24,491	25,982	26,402	27,837	+13.7%	+5.4%
その他機械加工品	4,436	4,591	5,229	5,101	+15.0%	-2.4%
電子機器						
回転機器	46,254	45,116	48,419	48,009	+3.8%	-0.8%
その他電子機器	27,350	26,443	27,880	27,724	+1.4%	-0.6%
その他電子機器	18,903	18,673	20,539	20,285	+7.3%	-1.2%
合計	75,180	75,690	80,049	80,948	+7.7%	+1.1%
〔営業利益〕						
機械加工品	5,952	5,067	6,045	6,972	+17.1%	+15.3%
電子機器	△ 1,786	△ 2,056	△ 1,831	△ 930	—	—
合計	4,165	3,010	4,214	6,043	+45.1%	+43.4%

2006年2月2日

2

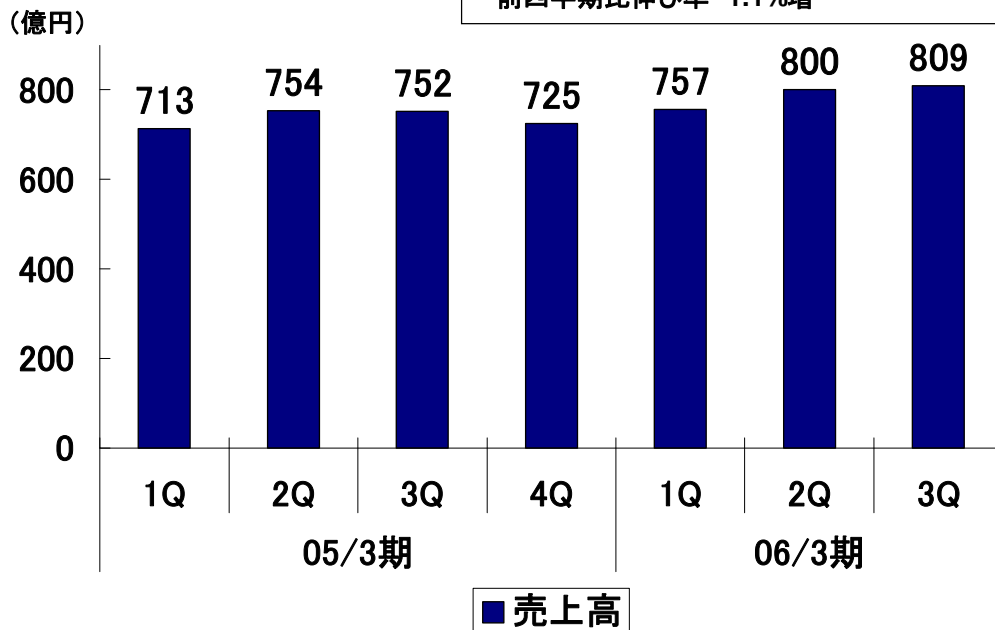


機械加工品セグメントの第3四半期の売上高はベアリングとピボットアッシーを中心に第2四半期より増加しました。営業利益についても、ベアリングとピボットアッシーの利益が増え、第3四半期は69億円と、第2四半期に比較して9億円増加しました。

電子機器セグメントは、第3四半期の売上高は第2四半期よりほぼ横ばいでありましたが、営業損益は9億円の損失と、第2四半期から9億円改善しました。スピンドルモーターとキーボードの改善が寄与しました。

売上高

3Qは、ベアリング、HDD用のピボットアッシー及びスピンドル
モーター、PC用のキーボードが2Q比増加。
前年比伸び率 7.7%増
前四半期比伸び率 1.1%増



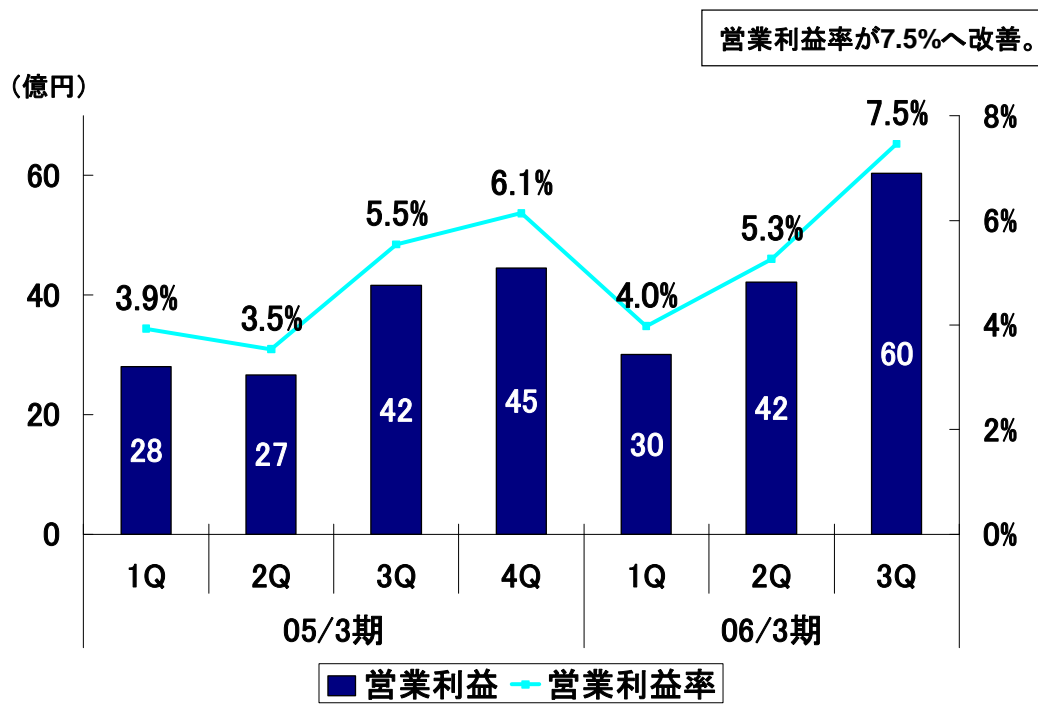
2006年2月2日

3



ベアリングなど主要製品の売上が順調に増えているため、売上高は上昇トレンドが続いています。

営業利益



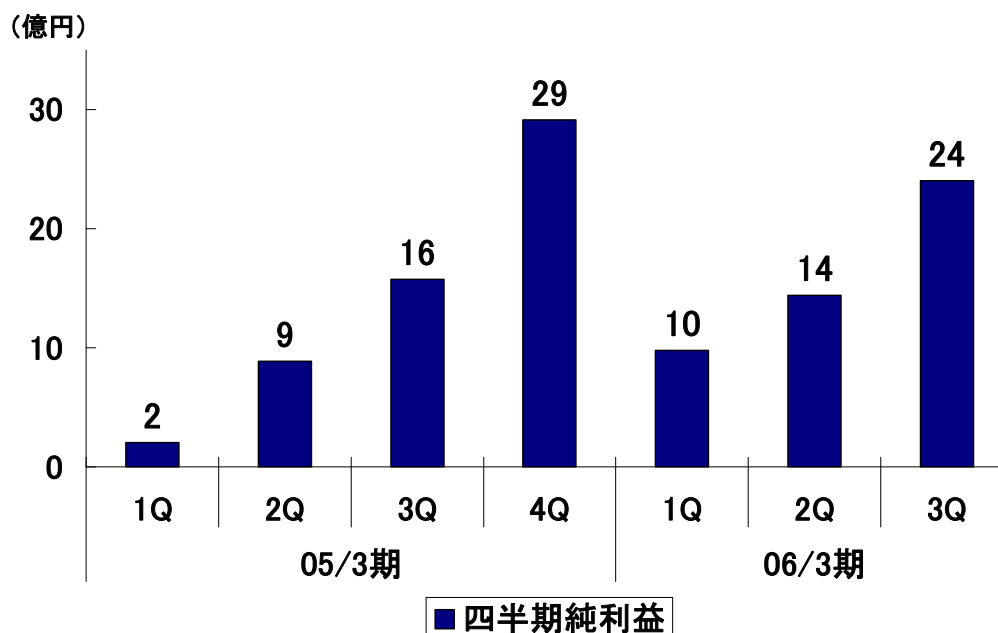
2006年2月2日

4

Minebea

第3四半期の営業利益は60億円、営業利益率は7.5%に改善しました。

純利益



2006年2月2日

5

Minebea

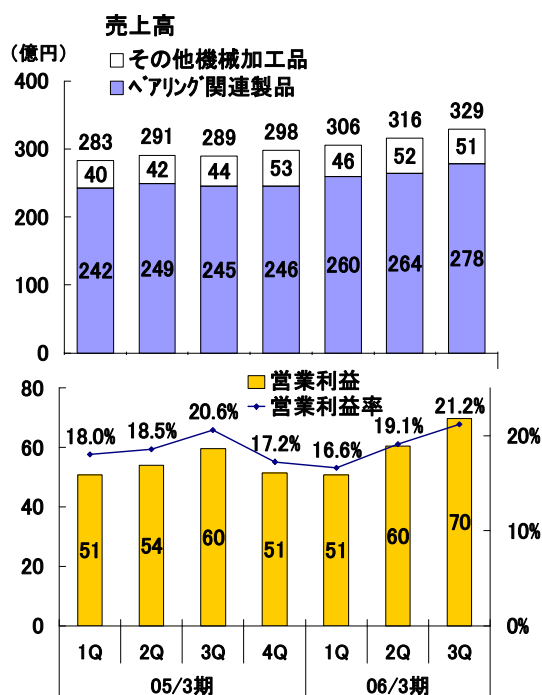
純利益は、第3四半期は24億円でした。

営業外費用は増加しました。海外借入金の金利が上昇し、第3四半期の支払利息は13億円となり、第2四半期より約1.5億円増加しました。

特別損益の項目では、第3四半期に、遊休資産となっている土地の価格下落を反映し減損損失1億円を計上しました。また、固定資産除却損として、タイのキーボード生産終了に伴い設備機械の処分引当金3億円を計上しました。

法人税等合計は26億円、計算上の税率は58%でした。税率が依然高い状況です。

機械加工品事業



ミニチュア・小径ボールベアリング

3Qはファンモーター向け等に増加。
一段の原価低減に取り組み中。

航空機向けベアリング

旺盛な需要が続いている。

ピボットアッシー

好調なHDD需要をフルに享受。
採算性が引き続き改善。

- 組立の歩留まり向上と部品の原価低減。

2006年2月2日

6



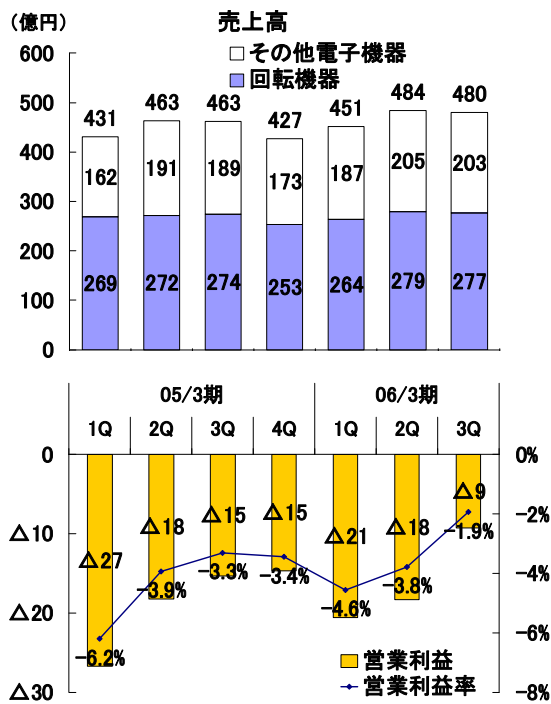
機械加工品事業のうち、ボールベアリングの第3四半期の売上高は第2四半期比5%増えました。ミニチュア・小径ボールベアリングの外販は月1億1,000万個(第2四半期比7%増)、社内使用と合わせた合計は月1億8,000万個(第2四半期比3%増)となり、過去最高の水準でした。今後も市場は拡大すると見込まれ、現在、月2億個に向けた増産投資を行うと同時に、生産効率の一段の改善に取り組んでいます。

ロッドエンドなど航空機用ベアリングは引き続き好調でした。

ピボットアッシーは好調に推移しています。第3四半期の販売は、2.5インチと1.8インチ向けが伸び、月2,200万台強と第2四半期から2%増えました。利益は第2四半期に続いて製造原価の低減が進みさらに改善しました。

機械加工品事業全体の営業利益は、70億円近くに達し、営業利益率は21%を超えました。

電子機器事業



05.3期の数値は修正ロイヤリティを反映させ、4Qに計上した戻し益を各Qに配賦し算出。
2006年2月2日

HDDスピンドルモーター

3Qは販売が増加。
原価低減施策の成果等により赤字脱却へ。

ミネベア・松下モーター合併事業

構造改革の成果を3Qに一部確認。

キーボード

タイからの生産移管が終了。
損益改善を確認中。

ライティングデバイス

市場の調整の影響を受けて売上が減少。3月以降回復の見込み。



電子機器事業のうち、HDDスピンドルモーターは、客先での売れ行き好調により第3四半期の販売は月約450万台、第2四半期比3%増となりました。7月以降取り組んでいる原価低減の施策の成果により製造単価の低減が進み、第3四半期の損益はほぼゼロになり赤字脱却が見えてきました。今後は黒字定着を目指します。

一方、ミネベア・松下モーター合併事業では、売上が減少しました。ファンモーターでは季節要因と一部受注内容を見直していることの影響がありました。ブラシ付モーターと振動モーターでは、数量より原価低減に集中する方針で活動しています。9月に終了した構造改革の成果により損益は若干改善しましたが、更なる受注内容の見直しと生産工程の見直しを進めています。

キーボードについては、デスクトップ向けの販売が増加しました。損益は、タイから上海への生産移管が終了したことにより二重構造が解消し改善しました。

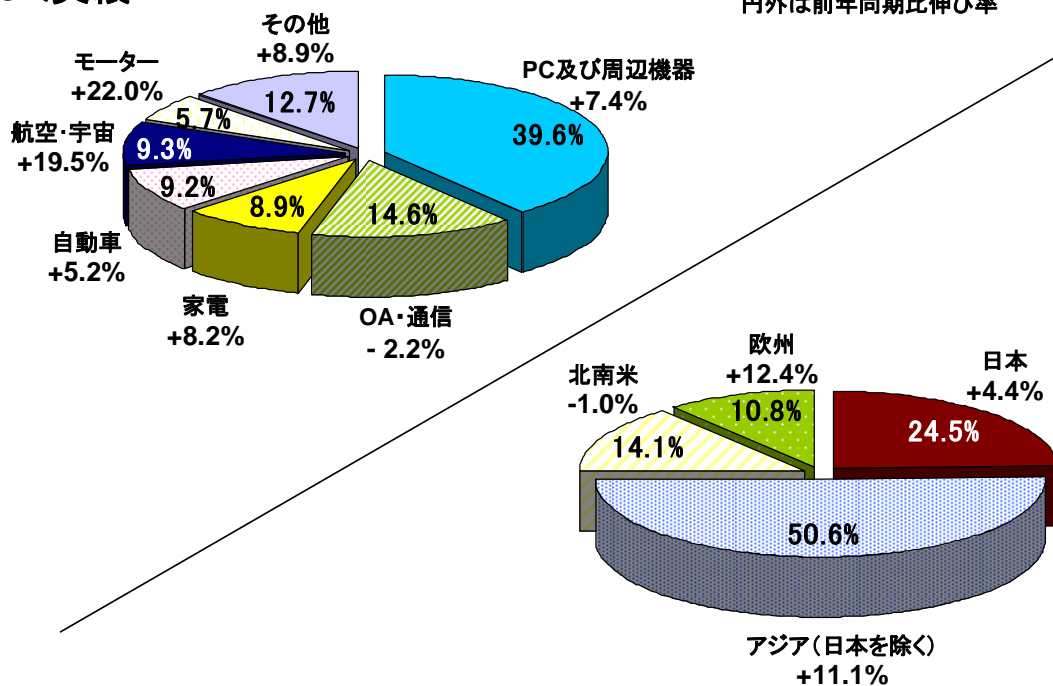
ライティングデバイスは、客先の季節調整の影響を受け売上が大きく減少しました。しかし、12月を底として3月から本格的に回復する見込みです。

電子機器事業全体の営業損失は9億円となり、第2四半期から9億円の改善を果たしました。

用途別・地域別売上高

3Q実績

円内の数字は売上高比率
円外は前年同期比伸び率



2006年2月2日

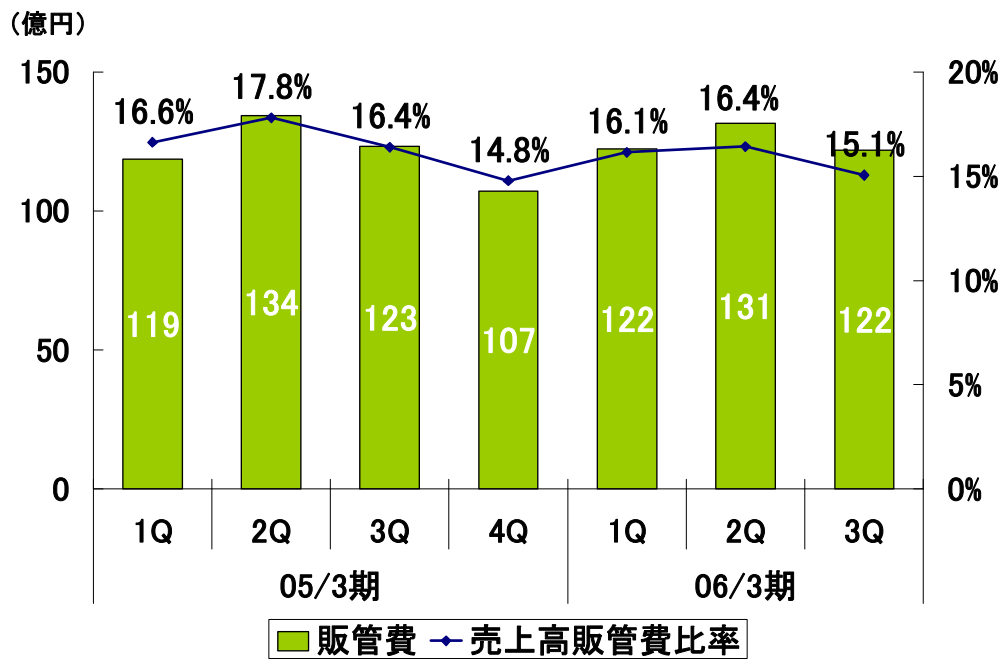
8

Minebea

用途別では、第3四半期、航空機向けの売上高が前年同期比大幅に伸長しました。家電、PC向け、自動車向けなども伸びました。

地域別売上高については、アジアと欧州地域の売上が前年同期比増加しました。円安を除いた実質ベースでは、ロッドエンドが好調な欧州地域が大幅増となりました。

販管費



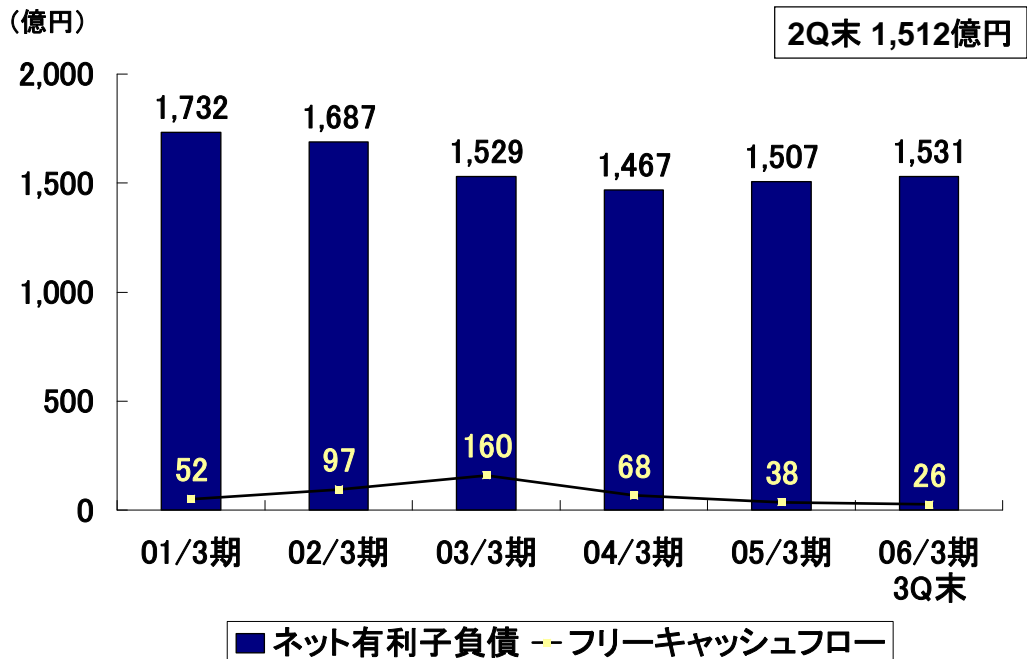
2006年2月2日

9



円安の影響がありましたが、第3四半期の販管費は122億円と、売上高販管費比率は15.1%に低下しました。全体的な経費削減の効果が表れています。

有利子負債



ネット有利子負債 : 有利子負債合計 - 現預金
 フリーキャッシュフロー : 営業活動CF - 投資活動CF

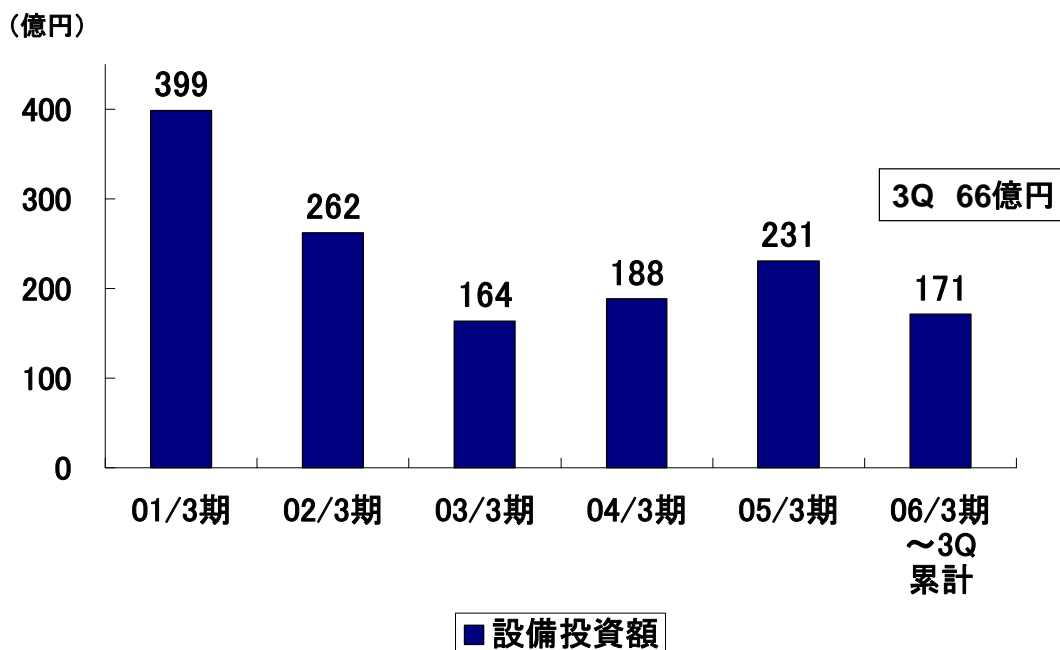
2006年2月2日

10



第3四半期末のネット有利子負債は1,531億円でした。第2四半期末の1,512億円から18億円の増加ですが、そのうち10億円は円安の影響でありましたので、実質は8億円の増加となりました。年末の賞与支払いと棚卸資産の増加により、第3四半期のフリーキャッシュフローがマイナスであったことが増加の要因です。

設備投資額



2006年2月2日

11

 Minebea

3Qの設備投資額は66億円でした。

現在、通常のモーターやキーボードの金型への投資のほか、ボールベアリングの増産、HDDスピンドルモーターの増産と部品の内製化、自動車用モーター部品の生産性改善のための投資を実施しています。

第4四半期見通し

通期業績計画は変更なし。

2006年2月2日

12



第4四半期の見通しについては、季節要因の影響により売上高は第3四半期より減少するとみています。利益は、損失を計上している事業による改善が鍵になります。尚、第4四半期の特殊要因としては、キーボードタイ生産終了費用 3億円を特別損失として見込んでいます。

通期の業績計画に変更はありません。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2006年2月2日

